学位論文審査の結果の要旨

大林隆司

本研究は、小笠原諸島における食植生陸生貝類、特に小笠原の世界遺産としての登録根拠ともなったカタマイマイ類、および農作物を食害するアフリカマイマイの分布について年次変動を明らかにするとともに、これら陸生貝類の強力な捕食者で外来種の陸生プラナリア（ニューギニアヤリガタリクウズムシ）（以下リクウズムシ）の分布の年次変動を明らかにすることで、両者の関係を明らかにしたものである。上記の食植生陸生貝類は父島と母島の両方に分布していたが、いずれも分布域は経年的に縮小、特に父島では著しく縮小していた。一方、リクウズムシは世界的には陸生貝類の生物的防除資材として使用されていたものである。小笠原への侵入の経緯は不明であるが、調査の結果、父島には生息し、母では生息は認められなかった。父島ではリクウズムシは1990年代から見られ、マイマイ類の分布縮小時期と一致していた。これらの結果および、リクウズムシの食性は著しく広かったことから、リクウズムシがマイマイ類の分布縮小の主要因と推察され、また、父島以外の地域への分布拡大を防ぐ必要が強く示された。本種は一般に海岸線には分布しないことから、海水あるいは塩水に浸漬した時の生存率を調べた結果、短時間で死亡することが明らかとなった。この研究結果は、現在では小笠原の島間の移動の際、乗船と下船時の侵入防止対策に資されている。

以上のように、本論文は、多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文が博士（農学）の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。なおリクウズムシの和名について本文との整合性を検討し、学位論文名を「小笠原諸島における陸生貝類の分布の年次変動と外来天敵ニューギニアヤリガタリクウズムシなどの影響および分布拡大防止対策」に変更した。